

令和7年度 第3回 宇治市観光振興計画策定委員会 議事録

日時 令和7年11月25日（火） 13時～15時

場所 うじ安心館 3階大会議室

出席者

宇治市観光振興計画策定委員会

委員長 坂上 英彦

副委員長 中村 藤吉

委員 山仲 修矢

〃 浅井 栄一

〃 堀井 長太郎

〃 四辻 清美

〃 神居 文彰

〃 佐脇 至

〃 若林 浩吉

〃 大國 憲治

〃 桑田 知恵子

〃 岸田 秀紀

事務局

産業観光部 部長 脇坂 英昭

産業観光部 副部長 前田 聖子

産業観光部 観光振興課 課長 杉本 隆之

産業観光部 観光振興課 副課長 北 久美子

産業観光部 観光振興課 観光企画係 係長 西井 利治

産業観光部 観光振興課 観光企画係 主事 田島 佳奈

産業観光部 観光振興課 観光企画係 西尾 佳子

資料

- ・令和7年度 第3回 宇治市観光振興計画策定委員会 次第
- ・宇治市観光振興計画策定委員会 委員名簿
- ・宇治市観光振興計画策定委員会設置要項
- ・宇治市観光振興計画策定委員会の会議の公開に関する要項
- ・中期アクションプラン概要 資料1
- ・中期アクションプラン初案 資料2
- ・委員会での意見 資料2-①
- ・アクションプランの変更について 資料2-②

1. 開会

2. 議事

・中期アクションプラン初案

・基本理念および宇治観光の現状について

事務局より資料 1、資料 2 について説明

委員長：

前半 11 ページまで、事務局より説明があった内容についてご意見・ご質問等があれば
願います。ご発言がないのでこれでいいということだろうか。次のアクションプラン
の内容も含めて、ご意見があれば後ほど伺う。

・中期アクションプランのコンセプトについて

・アクションプランの変更点について

事務局より資料 2、資料 2-①、資料 2-②について説明

委員長：

アクションプランのコンセプト、見直しの具体的な変更点、数値目標について説明いた
だいた。ご質問等あれば願います。

委員：

「3-7 数値目標」について、(内訳)に「トイレ・ゴミ箱について」と記載されて
いるが、「ゴミ箱」という文言を入れると設置することが前提になってしまう。エリア
としてゴミ箱を設置するのか、もっとほかに解決方法がないのか、前回会議でも論議が
あったので、明言しないほうがいいのではないか。

事務局：

確かに「ゴミ箱について」と明記すると設置が前提になってしまうので記載方法は再度
検討する。観光動向調査でのアンケートに「ゴミ箱について」という項目があるので、
その点も踏まえて最終的な記載方法を検討する。

委員：

外国人観光客の誘客や情報発信に関連するが、昨年・今年は特にインバウンドがたくさ
ん来られて宇治市の観光にとっては良い年だったと思う。その背景として、全体的にイン
バウンドが増えているのもあると思うが、コロナの前から観光協会や商工会議所と
一緒に海外のプロモーションを非常に頑張っておられたことが今に結びついているの
ではないか。特に台湾など、非常にお客様も多く、プロモーションが反映されて今のに
ぎわいに結びついていると思う。目の前の課題を解決していくことも大事だが、5年後、
10年後を見据えて新たな布石を打つことも必要である。例えば 23 ページに「③国内外

へのプロモーションの強化【重点項目】とあるが、今まで弱かった海外のエリアにプロモーションを進めるなど、少し先を見据えて動くことも必要だと思う。何か考えていることはあるか。

事務局：

これまで台湾などアジア諸国のリピートが非常に多いことも踏まえて様々な取組は進めてきた。この間、欧米豪諸国からもたくさんお越しいただいている。今後の動向も踏まえ具体的な策を展開していきたいと考えている。「③国内外へのプロモーション強化」に具体的なエリアの記載はないが、これから先のことも見据えてプロモーションは強化していきたい。記載方法は検討する。

委員：

中期アクションプランのコンセプトで「五感で愉しむプレミアムな宇治の観光まちづくり」を打ち出しているが、どんなものが質の高い観光で、どのような施策をアクションプランの中に盛り込んでいくのか、個別のアクションプランの中でどこを目指していくかが少し分かりにくく感じた。宇治を観光する方の期待度の統計でも、プレミアムな宇治茶の体験がしたい、名所旧跡や寺社仏閣などたくさんある文化を体感したいという結果が出ていたと思う。それに直結した消費行動が低下傾向にあると前回お示しいただいたが、観光消費額を上げるために、ニーズと提供コンテンツをどのように注力するかを明確に示されると分かりやすいと感じた。

委員長：

アクションプランの中で、オレンジの枠がプレミアムと先ほど説明いただいたが、オレンジの枠が多くて直感的にイメージしにくい。ほかの皆さんの意見はどうか。

委員：

今、宇治でプレミアムと称して富裕層を受け入れられる施設や内容がないように思う。どこに焦点を当ててプレミアムな体験等といったっているのか、具体的な例を教えてください。

事務局：

施設という面では現時点で整備できているものは少ないと思う。今後、水辺のにぎわいづくりのところでも挙げた船上のプレミアムダイニングなど検討しており、宇治茶もプレミアム体験に含まれると考えている。質の高い受け入れ環境の整備も進めていきたい。

委員：

行政だけでなく、我々事業者も「プレミアム」を目指していかないと、全体の街のバランスを考えた時にいびつになる。気候・風土・文化を兼ね備えた少し上の具体像を目指して取り組んでほしい。

委員長：

京都府では季節にあわせ特別拝観などをおこなっているが、そういうものも含まれるのか。

事務局：

本市においても非公開文化財の公開は継続的に進めていきたい。プレミアムにつながるものと考えている。

委員長：

平等院でプレミアムな体験を実施されていたら教えてほしい。

委員：

その前に、質問したい。次年度の予算に関わる時期だと思うが、次年度の観光関係の市からの予算はどの程度増える見込みか。委員会でゴミや看板、道の問題や夜間のさまざまなイベント等について話し合ってきたことが組み込まれているが、観光関係の市としての予算増額はどの程度あるのか。

事務局：

この段階で明確に申し上げることはできないが、第2期観光振興計画の中期アクションプランを策定する上で、予算とも関連した働きかけは今後必要であると十分認識している。我々も当初予算の編成中であり、十分予算を確保しながら進めていきたいと考えている。

委員長：

減額か増額かはお答えいただけるのか。

事務局：

減額とも増額とも言えないが、もちろんこの計画を作る上で予算がなくては話にならないと十分理解している。しっかり力を入れて取り組んでいきたいと考えている。

委員：

これだけ計画が積み上がってきているので、予算獲得に向けてぜひ努力していただきたい。次の会議で計画が固まるが、具体的なことがないと動きにくいと思う。新しいことが入ってもいいように思う。もう1点、2ページの「1－2 計画の位置付け」に国・府・市関連の計画が記載されていたが、「お茶」について「観光」について、また近隣の大型商業施設であるアウトレットなどは宇治市外のことでもある。道路も宇治だけ整備されればいいわけではなく、どこからどうつながるかが問題になるので、近隣市町村との連携も必要になってくるのではないか。六地蔵は京都市や伏見区とも関係する。アウトレットについては以前からお話ししてきたが、アクセス含め整備しないと間に

合わない。宇治、近隣市町村、関係各所との連携窓口をどう考えてどう作っていくかが大切ではないか。宿泊についてもどの程度誘致するのか。プレミアムとなるとビジネスホテルだけでは難しい。平等院は、京都市内のホテルから朝一番に出て、普段できない朝霧の中の早朝拝観を案内している。宇治に宿泊施設が少ないので京都市内から来ている。プレミアム層なので人数は非常に少ないが、満足していただいて SNS 等で発信していただき、好循環ができる。宇治だけで下支えできないところを外から取ってくることも含め、連携の窓口をつくっておいたほうが良いと思う。

委員長：

京都市では混雑しない時間帯の朝観光を実施されているとのことだ。合わせて早朝から行ける喫茶店に案内するなどをされていた。宇治市も検討されては。

事務局：

早朝観光だが、現在観光協会でも実施していただいている。萬福寺にご拝観いただき朝がゆを食べて、ダム・炭山の陶芸・お茶の研究所にそれぞれ行っていただく3つのコースを今年お試しで実施している。今後どのように活かしていくか、協会と市が一緒になって研究していこうとしている。

委員：

アクションプランの項目が相当多岐にわたっている。全てを令和11年までに達成することになっているが、メリハリがないと感じた。予算も有限なので、この4年間で何に一番重点を置くのか、優先順位ができていないと思う。プレミアムというコンセプトもふわっとしている。最終的に消費額の向上・達成を一番に目指すならこの4年で最注力するのはここ、と決めていかないと経営資源には限りがある。明確化しないと戦闘能力がなくなるのではないかな。

委員長：

戦略的なストーリーがもう少し欲しいということかと思う。ほかにいかがか。

委員：

数値目標の内訳について、宇治茶は90%以上を目標にすると記載があるが、既に達成されているので、今より上の数値を目指すほうが良いのではないかな。宿泊について、日本人60%、外国人75%という現状数値を向上できるような具体的な施設や取組などはあるのか。宿泊は施設が伴わないと簡単には上がらない。

事務局：

宿泊は土地の問題や事業者との連携など非常にハードルが高いと思っている。朝観光、夜観光についての取組は準備を進めているが、もう少し長くいたいと思えるようなニーズが高まるように、時間はかかるかもしれないが取組を進めていきたい。宇治茶については確かに既に達成している項目なので、目標値を見直していきたい。

委員：

宿泊の問題にも関連するが、宇治の観光満足度の中に自然や風景がある。案の中にアウトドアツーリズムとあるが、散策すればいいというわけでもなく、野外活動センターについてどのように喧伝し、活用し、中宇治などと連携させるか等考えていく必要があるのではないかと。せっかく自然景観があり、野外活動ができる施設まであるので、宇治全体がよくなっていけばいい。宇治茶については、消費額ではないところが問題になってきているのではないかと。観光コンテンツとしてお茶席体験などを展開していくには、お茶道具などの不足が予測され、来訪者の増加やニーズに対して、質の高い体験を安定して提供することが難しくなるのではないかと感じている。

委員：

宇治は大変恵まれていて、何もしなくても来てくれるが、それが良いのか悪いのかと考えている。私は、宇治に来られる方にとってお茶の味が一番のおもてなしではないかと思ひ、店頭にいる時にはお茶を煎れて飲んでいただいている。これは宇治のお茶屋さん文化だったが、今はお客様が多くできる人とできない人がいて、不公平と書かれてしまうこともあり、難しい時代と感じている。

宇治のお茶に付随する道具類、茶筌なども今は全くない。一昨日 NHK スペシャルで千家十職の番組があったが、お茶道具自体を継承していくことが本当に厳しく、これから何軒かやめていかれるのではないかと先行きが怖い。宇治には炭山があり、茶陶がある。春の陶器市もすごく賑わっていたが、だんだん出展者が少なくなってきた。宇治の茶祭でも茶道具は年々少なくなっている。先ほどの委員の意見がよくわかる。

以前、文教大学の学生が宇治の利き茶めぐりを実施していたときには大勢の人が来ていた。今は源氏物語のスタンプラリーをしているが、紙媒体ではなくデジタルで実施されていて可視化されにくい。今はインバウンドの方のほうが多いが、今後日本人の方には来ていただくかを次の手として考えておかないと厳しいと思う。

委員：

宇治のふるさと納税は今のくらいあるのか。

事務局：

昨年度は1億7,600万円と出ている。

委員：

返礼品にお茶関係はあるのか。

事務局：

少しある。

委員：

日本人の旅行者は連休になると短い期間で大勢来るが、インバウンド客は1週間～10日という長期間で日本を旅行する。日本人の40代後半～60代の特に男性が家族と一緒に観光に来る際、混雑やレジの作業が遅いことについてお叱りを受けることがある。インバウンド客はそのようなことを一切言わない。

今後、日本人はどんどん減っていく中、今年のインバウンドは4,000万人ほど、今後は6,000万人まで増えていくのではないか。広大な国なので日本とは違うが、スペインが8,000万人、フランスは1億人。宇治にどうやって来ていただくか、自然と観光、世界に誇る宇治茶のあり方をブランディングし、これからどんどん「プレミアム」ということを世界に発信して行っていただきたい。宇治茶が他の産地とは違うということを打ち出してほしい。

委員長：

宇治茶は世界でほかを圧することができる他にはまねできないキラーコンテンツである。今回のプレミアムでどのように具体化していくか、優先順位が非常に高い印象を持った。

委員：

トイレ・ゴミ問題について皆さんにご苦労をおかけしている。当社でもゴミ箱の撤去など進めており、ゴミがたくさん集まることに苦労しているところもある。トイレの問題も含め、文化の違いを痛感しているところである。

委員：

皆様のご意見と同じですのでその他特に発言することはない。

委員：

皆様から真剣で素晴らしいご意見をお聞かせいただいた。宇治茶は間違いなくキラーコンテンツであり、なおかつ宇治はさまざまな歴史や時代に関係していることを先んじて喧伝しておくことが重要と思う。来年の大河は秀吉の弟がテーマなので、ある程度乗っかっていく必要があるのではないか。平等院だけでも信長、秀吉、家康に関係が深い。今でも三河の小学校が闘茶の所にくる。再来年の大河は海舟のライバルのはずだ。先々週も東山で龍馬忌があり、海舟の玄孫が宇治に来ていた。明治天皇がここで西南戦争の始まりを聞いたという歴史もある。さらに先の大河は手塚治虫で、前に委員に教えていただいたように、今の京都アニメーションやアニメ文化のルーツである。新しい発展が宇治に花開いていることも含め、事前に情報を得て発信していくことが重要である。予算を立てて積んでいくと同時に、配信や発信をDMOも含めて実施いただきたい。宇治の観光マイスターが発揮できる窓口であってほしい。

委員：

観光客の滞在時間については、宇治に宿泊できる所が少ないこともあり、夜を楽しめる場所が少ない。伏見は酒どころなので、安く飲めて食べられる所が多く、夜も人が歩い

ている。最近の飲み屋は女性客も多く、酒屋さんも女性向けのお酒を造っている。伏見の近くであることもうまく利用して、夜も元気な街にしていきたい。

委員長：

朝観光に加え、夜の観光も考えていきたい。一通り話を伺ったが、ほかに気がついた点はあるか。皆さんからご意見を伺って、プレミアムという新しいコンセプトには賛同いただけたと思う。ただ、プレミアムがアクションプラン全体に広がりすぎているので、もう少し具体的に分かりやすく、シンボリックに理解できる内容があるといいというご意見であったと思う。計画を見れば宇治がプレミアムな観光を目指しているということが分かるような具体策を出していただくといいと思う。

委員：

京都府茶業会議所ではプレミアム宇治玉露、プレミアム宇治煎茶というのを京都府と一緒に実施していたが、お茶によって単価が違うため1万円、3,000円とプレミアム宇治玉露の値段にばらつきが出てしまった。消費者に分かりやすい選定の仕方をしていきたい。「プレミアム」の的を絞ることが必要と感じる。

委員長：

プレミアム感を実感するためには、全てがプレミアムにならないよう絞る必要がある。全体を通して事務局から何かあるか。

事務局：

予算について、当然今年度以上の確保を目指していく。宇治市の計画なので、それに沿った予算組みを今進めている。計画となると総花的になってしまう傾向があるが、中でも具体的な施策、事業としてももう少し的を絞って実施していきたい。この4年間様々な取組はしてきたが、プレミアムを意識して予算化をしてきたわけではないので、これからはそういった思想や発想をしっかりと持って予算獲得に努めていく。4年後には、今回ご議論いただいたことが幾つかは成果として上がってきたと皆様に言っていただけるよう、今後努力していきたい。

委員長：

「富裕層」や「ラグジュアリーマーケット」など一般的に使われる言葉がどこかに記載されているといいと思う。国内外へのプロモーションについてどのような人を呼んでくるのかという視点で、こういったキーワードも重要になると思う。「宇治のプレミアムメニュー」など、表現を工夫して具体的にするとイメージが豊かになるのではないかな。ほかに言い残したことはないか。続いて「3. その他」に移る。

3. その他

委員長：

このアクションプランや観光計画以外でもいいので、何かあればご意見をいただきたい。今日は事務局資料がよくできていて皆さんも納得されたと思う。アクションプランについてはもう少しコンセプトに基づいて具体的なものが書かれるといい。欠席委員の意見もまとめていただいて最終案を作成してほしい。ほかになればこれで令和7年度第3回宇治市観光振興計画策定委員会を閉会する。皆様ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しする。

事務局：

坂上委員長、委員の皆様、本日は熱心なご議論をありがとうございました。本日頂戴した貴重なご意見を宇治市観光振興計画中期アクションプランに反映していきたい。12月下旬から、本計画初案について広く市民の意見を募集するパブリックコメントを実施する。次回委員会は本日のご意見とパブリックコメントや欠席委員のご意見も踏まえ、宇治市観光振興計画中期アクションプランを提示させていただく。

4. 閉会

- ・ 脇坂部長より挨拶